



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和4年3月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数370人

ルールは何のため？

校長 清水 励

今年度最後の月となりました。3月の登校日数は、わずか17日（6年生は16日）しかありません。子供たちには、今の学年での残りの日々を大切に過ごしてもらい、次につながる「振り返り」と「助走」の時間にしてもらいたいと思います。

新型コロナウイルスについては、いよいよ本校でも、これまで以上に切実なものとなってきております。職員の感染により、皆様には御迷惑と御心配をおかけしたこと、深くお詫び申し上げます。基本的な「まてはなこ」の約束、特に「人との距離の確保（1m）」については、改めて職員及び子供たち自身が気づき、判断し、行動できるようにしてまいります。また、不運にも感染者が発生した御家庭には、学校からの感染情報の公開に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。個人のプライバシー保護の観点もごさいますが、感染拡大防止とともに、学校から適切な情報提供を行うことが、結局は個人を守ることにもつながると考えております。今後とも御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、社会や学校には、様々な「ルール」があります。学校では、「廊下は走らない」「授業中は勝手に出歩いたり、お話ししたりしない」などから、さらに細かな持ち物などについても「ルール」が決められています。それらの「ルール」には「理由」があり、これまでの学校文化の中で必要と判断されて作られてきたものばかりです。「ルール」を守ること、みんながしっかりと学習することができ、安全に安心して生活することができるので、これらの「ルール」はとても大切といえます。しかし、時世の流れや価値観の変化、そして、学校で育てるべき力の変化に対応しながら、これらの「ルール」は、常に見直す必要があります。本校では、生徒指導委員会を中心に、「このルールのねらいは？意味は？反対に失うものは？」という視点で「ルール」を見直し、職員が単に「ルールだから」という安直な指導に陥らないよう心掛けております。「ルール」の本当の意味を理解していないと、また、その「ルール」を守ることを目的としてしまうと、あまりにも不十分な対応をしてしまうことがあるようです。

今年の冬休み、あるお年寄りのお財布を拾いました。失礼ながら中を見ると、現金数万円と運転免許証や保険証などの大切なものが入っていました。運転免許証からお住まいが分かったので、その管轄の警察署に電話し、警察署までお財布を届けました。対応してくれた女性警察官に、謝礼不要であることと拾得人についての情報は伝えなくていいこと、また、この後、持ち主に財布がもどった時の自分への連絡をお願いして、警察署を去りました。しかし、数日たっても警察からは連絡が入らず…。心配になって警察に電話すると、女性警察官からは「持ち主と連絡がつかない。電話しても出ない。」との回答でした。「住所が分かっているのだから、財布を届けたり、近くの交番から知らせに行ってもらったりはできないんですか？」と言うと、「そこまでやる規則はありません。」との回答。その後も、保険証や免許証を無くして、そのお年寄りの方はすごく困っているだろうし、自分から警察に遺失物の届け出などができない方かもしれないなどと言っても、女性警察官からは「そこまではやることになっていない。」とのこと。自分は、憤りを感じながら電話を切った後も、気がかりで仕方なかったため、自分にできる方法で対応し、なんとかその日の夜にお年寄りにお財布を戻すことができました。やはり、そのお年寄りの方は、一人暮らしで、相談できる方もなく困り果てていらっしまったので、届けられてよかったと思いました。

「規則を守る」ということは、とても大切です。けれども、「規則を守る」ことは「目的」ではなく、その後ろにあるもっと大きな「守るもの」を大切にすべきと感じた出来事でした。今年度最後の学校だにより、少し残念な出来事を書いてしまいましたが、学校として大切にすべきこと「健やかな子供たちの成長」に向けて、保護者・地域の方々との連携を図りながら、今後も教育活動を進めてまいりたいと思います。

末筆ながら、今年度、皆様からいただいた多大な御支援・御協力に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。